

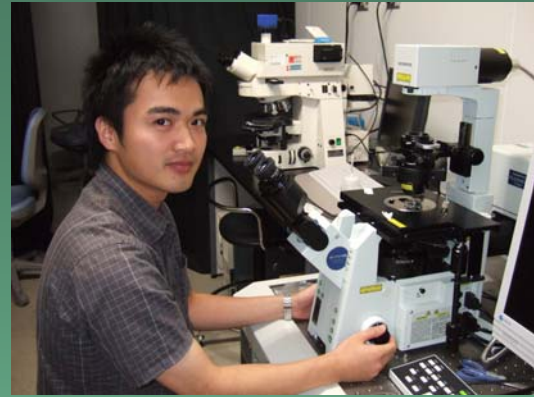


川橋 幸史(かわはし こうじ)

神戸大学大学院 自然科学  
学研究科博士課程1年

平成18年度よりJRAとして  
発生・再生科学総合研究セ  
ンター 形態形成シグナル  
研究グループに所属

Notchシグナルの制御因  
子の機能を研究するために、  
培養細胞を用いた分子レ  
ベル、そして神経や上皮組織  
での発生過程をモデルとし  
た個体レベルでの解析に関  
する研究に取り組んでいる。



## JRAを活用しよう！

### 【JRAに応募した経緯】

私は、学部生のときに化学を専攻し卒業研究では核酸の熱力学的解析、そして修士課程では生化学的手法を用いて転写因子の研究をしてきました。それまでの研究生活を通じて、生命現象を理解するためには個体を扱い、まず対象とするべき現象をとらえることが重要だと考えました。そこで、私の場合は生命の発生現象に興味を持っていたので博士課程で理研CDBにて研究することを選択しました。しかし、関東にある自宅からは通学することができず経済的な援助が必要であったため、学生でも給与をいただくことができるJRA制度に応募しました。

### 【JRAとして理研において研究を実施したことにより、大学での研究では得られなかったこと】

これまでは日本学生支援機構より返済義務のある奨学金を貸与し生活しておりましたが、JRAとして研究を行うことで生活費だけでなく大学院の学費も親に頼ることなく経済的に自立して生活でき、奨学金による負債のリスクを回避することができています。給与をいただいて研究に従事するという立場は研究を行う上での責任を負うことになるので、より研究に専念することができていると思います。

また研究面においても、理研では研究室間の垣根が大学に比べると低く交流が盛んで分野の異なる方々とDiscussionできる機会があったり、週に1回の頻度で外部からの招待講演者による非常に面白いセミナーがあったりと、大いに刺激を受けることができます。他の分野の人と有機的に関わることで自分一人ではできなかったような研究を進めることができる環境だと思っています。

### 【後輩へのメッセージ】

研究環境が整った理研で研究することは、充実した研究生活を送ることができると思います。サイエンスを本当に楽しんでいる人が多く、今後研究者を目指す人にとって、ほかでは得られない貴重な経験を積むことができ将来の大きな財産になると思います。是非、積極的にJRA制度を活用して経済面での負担を軽減し、自立した研究生活を送ってください。

